

[外国語]

生徒の即興性を高める指導の工夫 ーディスカッション形式を用いた授業の実践ー

白川 大輔*

1 はじめに

(1) これまでの授業の反省から

平成33年度に完全実施される中学校学習指導要領の外国語編では、「話すこと」の目標として「即興」という言葉が初めて使われている¹⁾。現行の学習指導要領の目標では「初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする」と書かれている²⁾が、新学習指導要領では、「話すこと」が「やり取り」と「発表」に分けられ、それぞれに「関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする」、「関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする」という目標が掲げられた。平成33年度からは、今までの「自分の考えを伝える力」に加え、「即興でやり取りする力」や「即興で発表する力」を生徒に身に付けさせる必要があることが明記されている。

では、今までの中学校の一般的な英語の授業で生徒に即興的に英語を使える力を付けさせていたかという疑問が残る。例えば、私が今まで勤めた中学校の英語の授業でよく行われていたスピーキングテストでは、暗記テストのように、生徒は自分が準備してきた英文をALTに伝えるだけになってしまっていることが非常に多い。また、以前一緒に勤めたALTからは、「生徒は一生懸命課題に取り組んでいるが、課題以外の質問や対話ができていない」という指摘を受けたこともあった。このような現状から脱却するために、生徒の即興性を高めることは、現在の中学校の英語教育において、最優先課題である。

(2) 即興性とは

新学習指導要領外国語編の解説では、「即興で伝え合うこと」について、次のように明記されている³⁾。

「即興で伝え合う」とは、(中略)不適切な間を置かずに関わりと事実や意見、気持ちなどを伝え合うことである。やり取りを行う際は、相手の発話に応じることが重要であり、それに関連した質問や意見を述べたりして、互いに協力して対話を継続・発展させなければならない。

以上を受け、本研究では、即興性を「不適切な間を置かずに関わりと事実や意見、気持ちなどを伝え合うこと」と定義する。

(3) アイデアマップとディスカッション形式の違い

即興性を高める活動として、アイデアマップを活用した活動がある。この活動では、生徒は一つのトピックに対して、思いつくことを自由に書き、それを連想ゲームのようにつなげることでスピーチ内容を作っていく。図に示したように、中学校英語の教科書でも、この手法でスピーチや他者紹介を作成している。アイデアマップのよい点は、

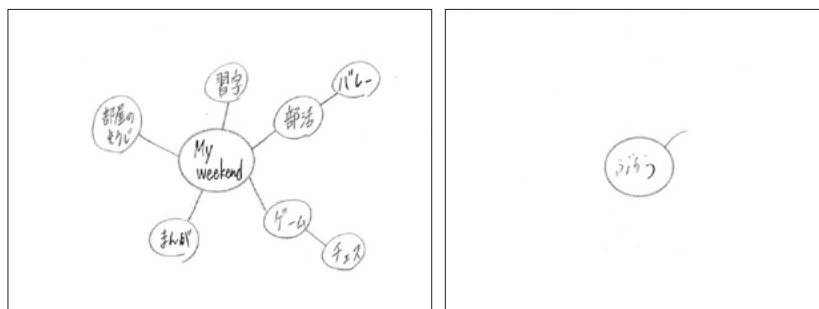


図1 生徒が作成したアイデアマップ

*上越市立中郷中学校

自分の話したい点を整理し、スピーチを作成できることである。たとえば、図1のように「My weekend」というテーマについて、生徒は思いのままアイデアマップを作成し、それを活用してスピーチ活動ができる。その際、英語で原稿を準備せず、このマップを見ながら即興で文を作り、お互い伝え合うことで即興性を高める活動を行うことができる。以前まで、私はこの方法でスピーチを行ってきた。

しかし、アイデアマップには欠点がある。それは、与えられたトピックに対してなかなかアイデアマップが進まない生徒が存在するということである。特に、自分の身の回りにある出来事に関心が薄い生徒や、なかなか自分の思いを書き表すことができない生徒にとって、アイデアマップは、ハードルが高いということである。例えば、「My weekend」というテーマについて、ある生徒は「部活」や「旅行」といったトピックで作成を進めるのに対し、「部活動は毎日同じことをしていたし、土日は特に、イベントがなかった」という生徒にとっては、アイデアマップを用いた活動を行うことが難しい。

そこで、私はディスカッション形式で即興性を高める授業ができないかと考え、実践した。ここでいうディスカッション形式とは「全体に一つのテーマ（質問）を提示し、それに対して賛成、反対の立場を明らかにして、その理由を簡単な英文で答える」という活動である。アイデアマップを用いたスピーチと同様、即興性が必要であることは共通しているが、この形式の良い点は、生徒が必ずどちらかの立場に属することで意見を述べやすく、活動に参加しやすいということである。「夏休みについて5文以上で話さない」という課題より、「夏休みと冬休み、どちらが楽しみか、理由を5文で述べなさい」という課題の方が、生徒は意見をもちやすいと考える。また、あらかじめ理由の述べ方を学習しているので、生徒にとって参加しやすく、生徒が意欲的に取り組む活動となることが期待される。

2 研究の目的

ディスカッション形式でのスピーキング活動を続けることで、次のような生徒を育成することを目指す。

- ① 一つのテーマに対して、賛成や反対といった自分なりの立場を表明し、その理由について即興で対話したり発表したりすることができる。
- ② 対話の中で、今まで学習した表現や語彙を使い、自分の言葉で対話を繋げることができる。

3 具体的な手立て

今回の実践は3年生の授業においてALTとのTTの授業で行った。以下はその日程とディスカッションの内容である。

日時	内容	目的
① 6月12日（火）	1回目 Are pets good for us?	自分の意見をもって、相手に伝えよう。
② 6月19日（火）	2回目 Should we wear a school uniform?	相手の意見を聞きとってみよう。
③ 6月18日（火）	スピーキングテスト①	今までの学習を生かし、ALTと対話しよう。
④ 6月25日（火）	スピーキングテスト②	今までの学習を生かし、ALTと対話しよう。
⑤ 7月10日（火）	3回目 Do you want to live in Nakago in the future?	語数を記録してみよう。
⑥ 7月17日（火）	4回目 What do you ask for to your partner?	対話をつなげてみよう。

図2に示すのが、授業で実際に使用したワークシートである。

上から、①テーマ、②意見の例、③メインの質問、④Yes / No の選択、⑤理由という流れで活動できるように順序建てをしてある。また、わからない表現があった場合、下の質問コーナーで聞くことができる。また、最後の2回の活動では、図3のワードカウンターを用意し、生徒がどのくらい英語を使えたのかをお互い数えることができるよう工夫した。

Small talk!

Name : _____

① おらい：自分の意見を3文程度の英語で述べるができる。
テーマ：Are pets good for us?

I think so.
Pets are good for us.
I have two reasons.
Pets are very cute.
Pets make me happy.

I don't think so.
Pets are not good for us.
I have one reason.
I don't like animals.

② MIND MAP

Are pets good for us?

③ I think so.

④ 理由①

理由②

I don't think so.

理由①

理由②

⑤ ○ 英語で言いたいけど、分からない表現はここへ・・・

自己評価 質問に対して自分の意見を持つことができた。	(A + B + C)
英語で自分の意見を述べる事ができた。	(A + B + C)
相手の意見に対して、相づちや反応することができる。	(A + B + C)

図2 生徒が使用したワークシート

1	50→	51↓	100	Date	Your partner	counts
2	49	52	99	4/11	N.Nobi	100
3	48	53	98			
4	47	54	97			
5	46	55	96	4/12	M. Ryusei	37
6	45	56	95	4/13	Y. Sato	32
7	44	57	94			
8	43	58	93	4/14	S. Tanaka	41
9	42	59	92			
10	41	60	91	4/15		
11	40	61	90			
12	39	62	89	4/16	M. Tanaka	50
13	38	63	88			
14	37	64	87			
15	36	65	86			
16	35	66	85			
17	34	67	84			
18	33	68	83			
19	32	69	82			
20	31	70	81			
21	30	71	80			
22	29	72	79			
23	28	73	78			
24	27	74	77			
25→	26↑	75→	76↑			

~Useful expressions~

I think so too.

I don't think so.

Why do you think so?

図3 ワードカウンター

4 実践

全6回のディスカッションの授業の中で、自分たちが住んでいる地域に関してディスカッションをした第5回の授業のディスカッション部分について取り上げる。

(1) 実際の指導案について（抜粋）

時間	○学習活動 ・予想される生徒の反応	●教師の支援 ◎評価（評価方法）
10	<p>○ 論点整理</p> <p>・生徒は与えられたテーマについて自分の考えをハンドアウトにまとめる。</p> <p>例：There are so many green.</p> <p>I don't like snow</p>	<p>● JTEとALTは机間巡視を行い、生徒が伝えたいことを英語で話せるように支援する。</p> <p>● ワークシートの時点では、日本語で内容をまとめてもよいことにする。</p> <p>● 意見の述べ方のパターンを示し、生徒に練習させる。</p> <p>I (don't) want to live in Nakago in the future.</p> <p>I have () reason(s)</p> <p>First, . . .</p> <p>Second, . . .</p>
20	<p>○ コミュニケーション活動</p> <p>席替えを行い、普段と違うペアで対話活動を行う。</p> <p>・ワードカウンターを活用しお互いの話した語数をカウントする。</p> <p>例：S1 I want to stay in Nakago. I have two reasons.</p> <p>First, I like Nakago's people.</p> <p>Second, I don't like cities.</p> <p>S2 I don't think so. I don't stay in Nakago.</p> <p>I want to study abroad.</p>	<p>● JTEはディスカッションの時間を30秒、45秒、60秒と徐々に長くすることで、生徒がスムーズに長い対話ができるように時間をコントロールする。</p> <p>● 1回ごとにペアをローテーションすることで、生徒が様々な意見に触れられるように活動をコントロールする。</p> <p>◎ 生徒は英語で意欲的にコミュニケーションを取ろうとしている（コミュニケーションへの関心、意欲、態度）</p> <p>◎ ペアで会話の語数を記録し語数を増やす努力をすることができる。（コミュニケーションに対する関心、意欲、態度）</p>

(2) 授業の実践

① 生徒が作成したワークシートについて

図4, 5は生徒が実際に活用したワークシートである。

ねらい：自分の意見を3文程度の英語で述べることができる。
テーマ「Do you want to live in Nakago in the future?」

MIND MAP

Do you want to live in Nakago in the future?	
I think so.	I don't think so.
理由① 静か	理由① 雪がヤバイ
理由② のんびりした、静かな町が好き	理由② 店が無い
○ 英語で言いたいけど、分からない表現はここへ・・・ 静か	

図4 生徒のワークシート（肯定意見）

ねらい：自分の意見を3文程度の英語で述べることができる。
テーマ「Do you want to live in Nakago in the future?」

MIND MAP

Do you want to live in Nakago in the future?	
I think so.	I don't think so.
理由①	理由① 外国の友達が多い
理由②	理由② 外国人俳優に会いたい
○ 英語で言いたいけど、分からない表現はここへ・・・ 外国の友達、外国人俳優	

図5 生徒のワークシート（否定意見）

② 生徒の活動の様子について

ディスカッション形式の活動では、多くの生徒が意欲的に自分の意見を述べる姿を見ることができた。この対話活動では、パートナーが語数を記録することで、自分がどれくらい話すことができたかを把握することができた。その結果、普段よりもさらに意欲的に活動しようとする生徒が多く見られた。また、不明な単語がある生徒はワークシート下部の欄に記入した。机間指導の際に教師が指導をし、不明点を明らかにすることで、活動のハードルを下げた。

③ 生徒の意見について

今回のテーマは「将来中郷に住むか否か」というものであった。生徒にとって身近なトピックであり、また生徒それぞれが自分の将来についてどの程度真剣に考えているかによって答えが変わってくる質問である。「将来も中郷に住む」と答えた生徒の意見を以下にまとめる。なお図6は授業の板書である。

- ・ Green is good for us.
- ・ Nakago is cool.
- ・ Cities are expensive.
- ・ I like Nakago's easy atmosphere.
- ・ We don't have to worry about Tsunami.

一方、「将来は中郷を離れる」と考えている生徒の意見を以下にまとめる。

- ・ We can't go shopping.
- ・ I don't like deep snow.
- ・ I want to go to the city to study.
- ・ I want to work in abroad.
- ・ I want to many people.

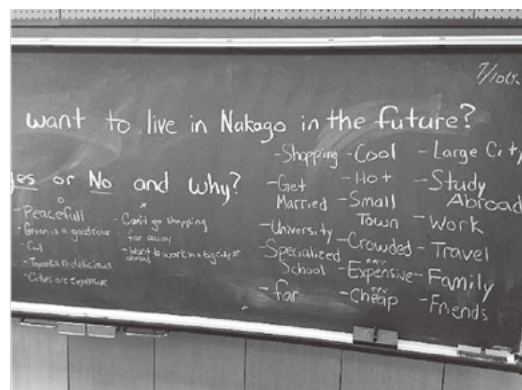


図6 授業の板書

5 研究の成果と課題

(1) 生徒の自己評価から

生徒の自己評価をまとめたものが下の表1である。

表1 生徒の自己評価

項目		質問に対して自分の意見をもつことができた	英語で自分の意見を述べることができた	相手の意見に対して、あいづちや反応することができた
1回目	よくできた	52	50	30
	できた	48	50	70
	できなかった	0	0	0
2回目	よくできた	60	48	48
	できた	40	52	52
	できなかった	0	0	0
3回目	よくできた	64	68	46
	できた	36	29	46
	できなかった	0	4	8
4回目	よくできた	46	25	39
	できた	54	75	57
	できなかった	0	0	4

生徒の自己評価では、概ね肯定的な評価が多く、自分の意見を持ち、意欲的に活動できた生徒が多いことが読み取れる。特に、3回目の評価が高くなっているのはディスカッションの回数を重ねていくことの有効性を表している。しかし、語彙がまだよく定着していない生徒にとっては、自分の伝えたい内容が英語にできず、マイナスの評価になっている。

(2) 生徒が実際に話した語数について

生徒の語数カウントを合計し、平均化したものが表2である。

表2 生徒が実際に話した語数

	1回目 (30秒)	2回目 (45秒)	3回目 (60秒)	4回目 (60秒)
3回目 Do you want to live in Nakago in the future?	26	34	40	56

生徒の話した語数については回を重ねるごとに増えていくことがわかった。同じ言葉を繰り返して語数を稼ぐ生徒がおり、語数が多くなっている。

生徒の対話の例を以下に示した。

① 生徒Aの場合

<p>1回目</p> <p>I don't think so.</p> <p>I want to study abroad.</p>	<p>2回目</p> <p>I don't think so.</p> <p>I want to study abroad.</p> <p>And I want to make my dream come true.</p>	<p>3回目</p> <p>I don't think so.</p> <p>I want to study abroad. And I want to make my dream come true.</p> <p>I like English, so I want to study English more.</p>
--	--	---

(3) 学校評価について

次に学校評価の数値の推移について以下の表にまとめた。(単位=%)

○ 英語の授業が分かる

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
平成29年 2 学期	17	48	28	7
平成30年 1 学期	37	33	26	4

○ 英語の授業が好きだ

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
平成29年 2 学期	17	35	31	17
平成30年 1 学期	19	55	11	15

「英語の授業が分かる」の質問では「あてはまる」と答えた生徒の割合が20ポイント上昇した。また肯定的評価が70%となり、昨年度より5ポイント上昇している。「英語の授業が好きだ」の質問では「あてはまる」と「ややあてはまる」の項目で合計24ポイント上昇しており否定的な評価をしていた生徒が肯定的な評価に変わってきている。また、学校評価生活アンケートを実施したのはこの実践の最中であった。以上により、この活動を通して生徒は英語に対して肯定的な印象をもったと考えられる。

(4) 成果

本研究の成果は次の3点である。

- ① ディスカッション形式を活用し、自分の立場や考え、理由等について生徒が英語でコミュニケーションをより積極的に取ることができた。
- ② ディスカッション形式の中で、学習した語彙を使うことで、実際に使える語彙が増えた。
- ③ 英語でのコミュニケーションを楽しむ生徒が増えた。

自己評価アンケートの結果、生徒の語数増加に加え、楽しそうな生徒の姿からディスカッションで一つのテーマについて自分の立場をはっきりさせ、その理由を答える形式が生徒にとって分かりやすく、コミュニケーションの垣根を低くしたと考えられる。

(5) 課題

本研究の課題は次の2点である。

- ① 即興でより深い対話活動を行うには、生徒の語彙力の定着が必要である。
 - ② 生徒に適したテーマを選ぶことが大切である。
- ②については、第4回目のディスカッションにおいて、生徒にとって適切ではない課題を設定し、生徒が戸惑う場面があった。生徒にとってどのような課題を提示するとより活発な活動となるのか、今後考えていきたい。また、ワークシートの「分からない表現」の欄に、表現ではなく単語を書く生徒が多く、語彙力を高める必要性を感じた。

(6) 終わりに

本研究を行ううちに生徒が楽しそうに英語を使う姿が見え始め、とても嬉しく思う。特に、スピーキングテストでは、ALTの不意に出してくる質問に正確に応えられる生徒が増えてきていると考えられる。ディスカッション形式の授業は、1学期で終了したが、現在も英語の授業で以前より積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿が見られる。生徒のがんばりを無駄にせず、生徒が様々な面で英語の力をつけられるように今後努力を続けたい。

[引用・参考文献]

- 1) 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）
- 2) 文部科学省 中学校学習指導要領 平成20年3月 告示
- 3) 文部科学省 学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編